

『一生懸命』幻の新座市議会報告第253弾!

たかむらともや

👤 藍先生

2024年は僕にとって大切な人が亡くなった年でした。10月に五中7期生の快治のお父さんが亡くなり、11月に友だちの修二さんが63歳の若さで亡くなり、10期生の弘樹のお父さんが亡くなり、そして僕のテニスの先生、「藍先生」が亡くなりました。

飯田藍とは17歳のときに初めて会いました。グリーンオープンジュニアの18歳以下でベスト4に入った僕のテニスを見て、藍先生はこう言ったのです。「君はネットプレーが上手だね。」その一言で僕のテニスの方向性が決まったのです。僕は大学に入って兎に角ネットに出る選手になりました。

それから10年の月日が過ぎたある日...僕は五中テニス部の子ども達を連れて、藍先生のいる「櫻田倶楽部」に行きました。

当時、日本のジュニアのトップだった松岡修造たちの練習を見に行ったのです。

五中の子ども達は燃えました。日本一のテニスクラブの練習を見たのです。その時の子ども達は全国大会に行きベスト8に入りました。ネットに出まくって...(笑)

それから二年後、五中男子は全国大会で準優勝。そして、その子達が六中に来てくれて、六中テニス部は全国優勝二回、関東優勝五回という成績を残したのです。

そう、五中と六中の硬式テニス部が強くなったのは全部藍先生のお陰なのです。

僕は「先生」と呼ばれるのが余り好きじゃありません。特に議員だから「先生」っていうのは違和感しかありません。でも、例外があります。それは「藍先生」に「先生」って言われることでした。だって、大好きな藍先生に「たかむら先生いつも燃えてるわね。」って言われて、僕の教え子達のことまで誉めて頂いたのですから.....

藍先生、ありがとう！そして、さようなら！👤

2025年1月31日発行



僕と藍先生の最後のツーショットです。場所はどこだったかなあ。飯田藍の笑顔って本当にいつも素敵で大好きな笑顔でした。👤

たかやんのプロフィール



本名たかむらともや
東京青山生まれ。
新宿区立西戸山中
都立石神井高、北大
庭球部卒(笑)

新宿区百人町では有名な超ワルガキが中学校で川合隆慶に会い、人生が180度変わる。それを書いたのが「先生の目」という本。この三月に出版される予定です。

政治家とPTAが大嫌いだった子が議員になったり、PTAの会長をやったりしたことも予想外だったが、何よりも作文が大の苦手だった子が中学校の教師になったり、本を出版してしまうところが笑えるなあ。

「卒論は必ず出します。約束します。あの連絡船に乗らないと僕を待ってる子ども達がいます！」そう言って、未だに卒論を出してないのです。北大の先生たち。ごめんなさい。そんな約束を守れない僕に習った子ども達にもごめんね! 写真は僕が大好きな高校の先輩、恒さんと。👤

たかやんの連絡先

自宅・塾

042-456-8869

携帯 090-6497-5737

takayanchan@outlook.jp

〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

👤 親父の出る幕

小学校三年生の亮が「学校に行きたくない」という。訳を聞くと「作文の宿題ができてないから。』『書けばいいじゃない。』と言うと、「書けない・・・」

次の日、先生から連絡があった。「毎日、忘れ物ばかりで勉強になりません！都合のいい日来て頂けないでしょうか。」という内容だった。

亮が書いた作文を見た。亮の字の上に**赤ペンで大きな×**が書いてあった。欄外に「メモだけで文になってない。やり直し」とあった。亮の字の上の×が悲しかった。赤ペンの**大きな×**が悲しかった。

俺ならもう二度と作文は書かないだろうと思った。夜の十時半、母親は作文を書かせようとした。習字の宿題もやらせようとしたが俺はやらせなかった。『寝ろ・・・』それだけ言って、亮を寝かせた。

俺は連絡帳に次のようなことを書いた。「亮の忘れ物が多いのは遺伝です。本人が悪いのですから、勉強はいくら遅れてもかまいません。他人に迷惑をかけたときはきつく叱って下さい。**学校でやることには一切口を出しません。ただ、学校でやることを家庭に持ち込むのは困ります。**宿題をしている暇はないのです。サッカー、将棋、ファミコン、空手、漫画、野球・・・亮にはやらなくてはいけないことが沢山あります。だから、他の子にはいくら出しても構いませんが、我が家の息子には宿題を出さないでください。そして、**作文の赤い×**が悲し過ぎる」ということを書いた。連絡帳に3ページ書いた。亮は俺の子である。人と同じようにやれる訳がない。父親として、そうなって欲しいとも思わない。他人に迷惑をかけるのは困るが、伸び伸びとしっかり遊んで、亮だけにしかない、何かを伸ばしてくれればいいと思っている。亮の体には父さんの血が流れているのだ。俺の血が流れているのだ。**心配することは何もない。亮の寝顔を見ながら、そう思った。** ともや



左の文章は僕が1991年の六中時代に書いた学級通信「一生懸命」の一部です。

丁度12月議会で「不登校問題」を取り上げていたので、若い先生達にも読んで欲しい！そう思ってここに書きました。

今も昔も子ども達にはやらなきゃいけないことがたくさんあるんです。学校のくだらない「宿題」なんかやっている暇はない。家庭学習ノートなどは論外なんです。(笑)

若い先生達に僕はこう言いたい。「**宿題を出すような授業をするな！」「勉強しなきゃいけないのは君たちの方だ！**」・・・と。

👤 2025年 新年の抱負

その一、まずは健康を維持することかな。その為には朝、太陽の光を浴びて**光合成**をする。(笑)何を合成するかというと、勿論デンプンではなくて、**セロトニン**という幸せホルモンの合成。それが目的。セロトニンがやがてメラトニンという催眠物質に変化して、質のいい眠りを獲得できるから。

その二、「手話」のトレーニングを毎日続ける。これがまた難しい。でも、面白いし楽しい訳で・・・今年の終わりに「大空の会」の仲間たちのように格好良く手話ができるようになったらいいなあ・・・。

その三、「先生の日」の続編を書きあげること。五中だけで終わったら、六中と二中和塾の子達に怒られちゃうので・・・その四と五はここに書ききれないので内緒です。(笑)



成人式に行くと「たかやん！」と抱きついてくる子達。「たかやん塾」の教え子達五人と会うことができました。幸せ、幸せ